

「乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の
病態解明等と死亡数減少のための研究」

平成 26 年度～28 年度 分担研究報告書

研究課題：乳幼児突然死症候群(SIDS)・乳児蘇生法の望ましい普及啓発についての研究

研究分担者：岩崎志穂(横浜市立大学附属市民総合医療センター)

研究協力者：喜多麻衣子(済生会横浜市東部病院)

研究要旨

乳幼児突然死症候群(SIDS)・乳児蘇生方法について養育者に対し正しい啓発活動を行うことは重要である。我々は年度毎に普及啓発方法を変更しながらその成果をアンケートにより調査した。対象は当院で1ヶ月健診を受診した児の母親。妊娠中の両親学級と出産後の退院指導でSIDSと乳児蘇生法の講義もしくは実習を行い、1ヶ月健診でアンケートを施行した。啓発は以下の3通りの方法で行った。①SIDSは1回講義、乳幼児蘇生法は講義1回・実習1回、②SIDS、乳児蘇生法ともに1回講義、③SIDS、乳児蘇生法ともに2回講義。SIDSについての講義は妊娠中に行ったが満足度が高く普及啓発の時期として問題ないと考えられる。講義の回数の多寡では知識定着に差は認めなかった。一般的なSIDSについての情報源としてインターネットの重要性が増してきていたが厚生労働省のホームページの認知度は高くなく周知が必要である。蘇生法に関しては実習を行った場合に満足度・知識の定着率が高かったがスタッフの負担が高かった。一方向性の講義は回数を増やしても知識の定着率改善に至らない事が示唆され、スタッフの負担が少ない実習方法もしくは双方向性講義等の工夫が必要であると考えた。

A. 研究目的

乳幼児突然死症候群(SIDS)は危険因子に養育環境に関する因子が含まれ、養育者に対し正しい啓発活動を行うことが重要である。また、乳幼児において心停止症例の予後は不良であるが呼吸停止の時点で有効な蘇生が行われると蘇生率が向上することが知られており、蘇生法についての啓発を行うことも有用と考えられる^{1)~6)}。しかし、啓発活動を行う時期、啓発方法に関する研究は少ない。我々はSIDS・乳幼児蘇生についての啓発方法

を年度毎に変更しながらアンケートを行い、その成果について検討した。

B. 研究方法

対象は当院で児の1か月健診を受け、アンケート(参考資料)に回答した母親。啓発は図1に示すごとく以下の3通りの方法で行った。①SIDSは講義1回、乳幼児蘇生法は講義1回・実習1回(平成26年度)、②SIDS、乳児蘇生法ともに講義1回(平成27年度)、

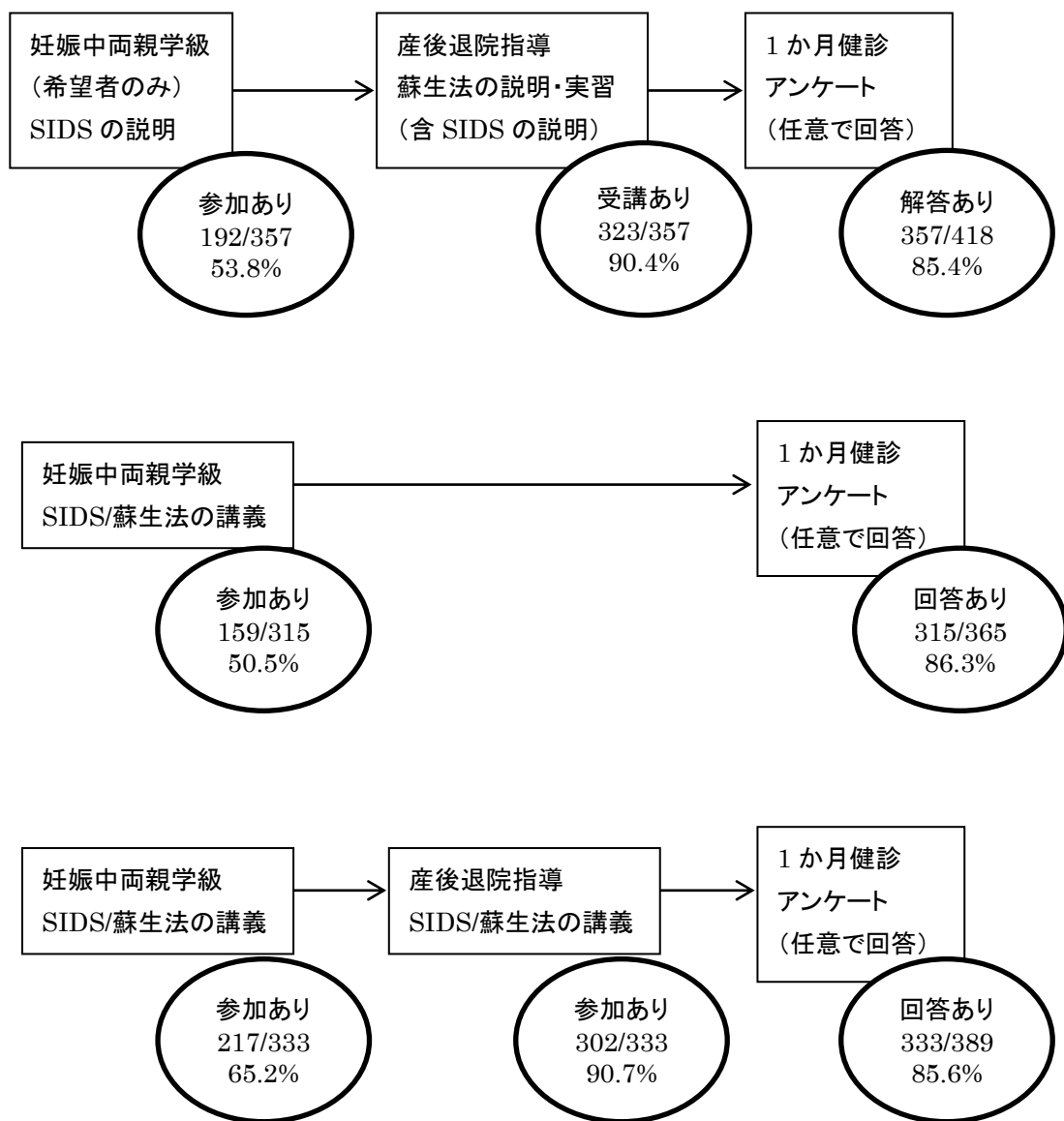


図 1. SIDS・乳幼児蘇生法講義とアンケートの流れ

③SIDS、乳児蘇生法ともに講義2回（平成28年度）。

両親学級は1ヶ月に1回妊娠24週から28週の妊婦の希望者のみを対象に行っている。退院指導は週3回の頻度で母児同室中の褥婦に対して行っている。SIDSについての講義はスライドを用い、乳児蘇生法についての講義はスライドとAmerican Heart Association発行のビデオを用いた。乳児蘇生法の実習は蘇生人形を用いて新生児科医師数人で行った。

アンケートは平成26年度と27年度はSIDSと乳幼児蘇生の知識を問う質問は同じものを使用した。28年度は一部変更している。研究は「世界医師会ヘルシンキ宣言（2013年10月修正）」、「疫学研究に関する倫理指針（平成20年12月1日一部改正）」を順守して行われ、横浜市立大学倫理委員会の審査を経て承認され、所定の説明書を用いて同意を得たもののみアンケートを実施した。また、個人情報保護に関しては、個人の特ができないよう、無記名のアンケート調査とした。

C. 研究結果

アンケート回収率（回答者数/一ヶ月検診受診

者数）は平成26年度85.4%（357/418）、27年度86.3%（315/365）、28年度85.6%（333/389）であった。

1. SIDS について

① SIDS 講義への満足度

3年ともSIDSの講義において満足、やや満足を併せると9割前後であり満足度は高かった。

② SIDS についての知識獲得率

平成27年度で聴講あり・なしでの比較を行い聴講ありがSIDSの質問6項目のうち0点が少なく、全問正解の6点が多かった。平成28年度で1回と2回の聴講での比較を行ったが正答率に差はなかった。またリスクファクターについての質問を28年に解析したが、うつぶせでは86.5%、喫煙では83.4%の回答者がリスクファクターとして認識していたが、非母乳に関しては63.6%とやや低値であった。

③ SIDS についての情報源

テレビを100とした時の他の情報源の割合を図5に示す。テレビ、インターネットに続き母子手帳が多かった。

④ 厚生労働省のHPについて

厚生労働省のHPにSIDSの情報が掲載されている事を知っている母親は15%に留まった

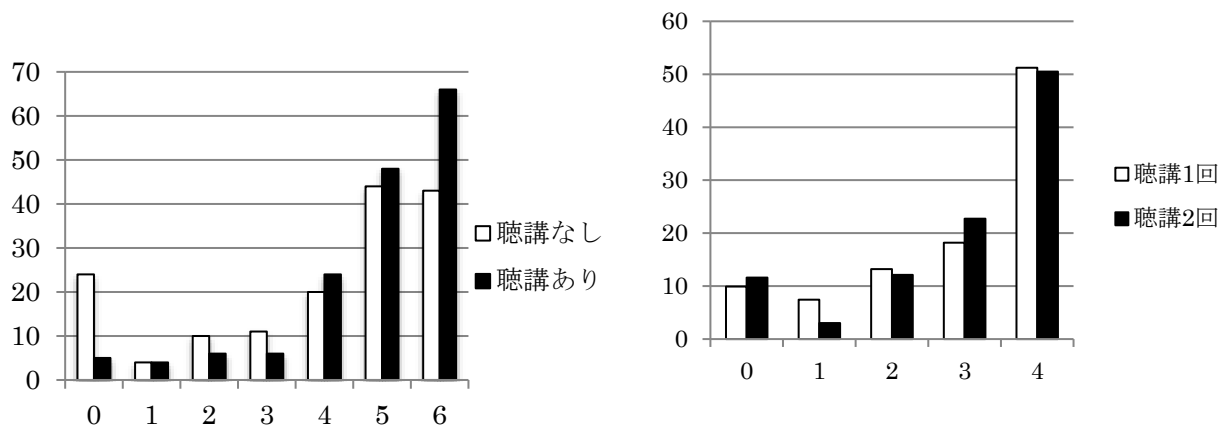


図2. SIDSに関する質問への正答数

2. 乳児蘇生法について

① 蘇生講義の満足度

実習では「満足」が 87%だった。講義においては実習より劣るものの「満足」と「やや満足」を併せると 7 割以上であった。

② 蘇生講義の知識獲得

図 5 は乳幼児蘇生法に関する質問への正答数を実習と講義で比較している。実習の正答数が有意に高かった。平成 28 年に行った講義 1 回と 2 回の比較では回数による正答数の差はなかった。

D. 考察

養育者へ SIDS の普及啓発を行う時期としては、これから我が子が生まれる時期が望ましいと思われる。しかし、妊娠中に「赤ちゃんが死んでしまうかもしれない」疾患についての講義を聴く事に対する聴講者の反応は調査された事がなかった。我々は平成 19 年から妊娠中の母およびそのパートナーに対し、出産前に SIDS の講義を行っている。その講義に対する養育者の感想は好意的な意見が 8 割以上を占め、ニーズは高く時期も適切と思われる^{7, 8, 9)}。

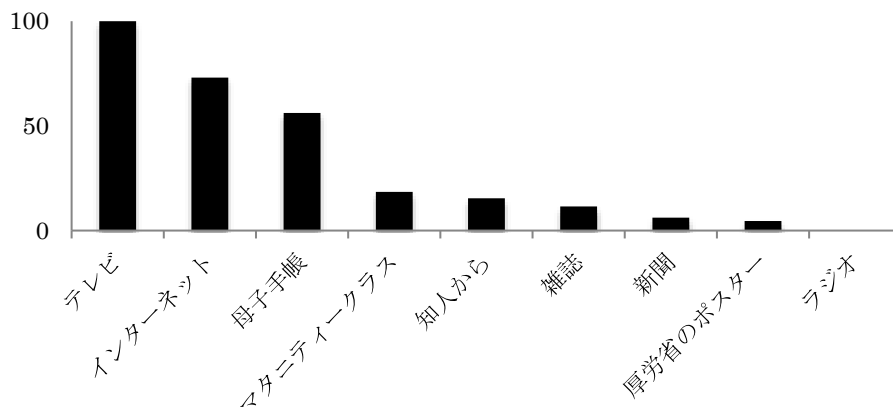


図 3. 乳児蘇生に関する質問への正答数

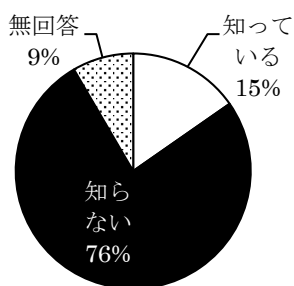


図 4. 乳児蘇生に関する質問への正答数

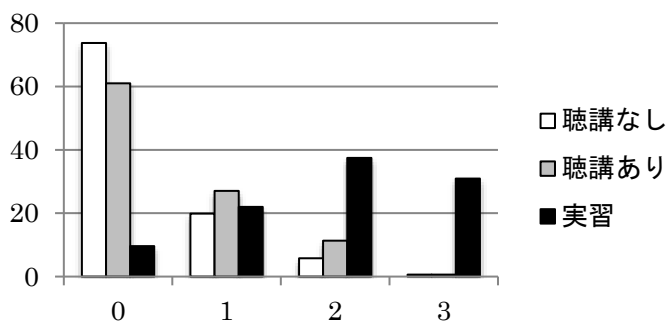


図 5. 乳児蘇生に関する質問への正答数

知識の獲得についても「講義あり」は「講義なし」に比して0点が少なく満点が多く、一定の効果を上げていると思われる。しかし、内訳をみると「うつぶせ寝」「喫煙」は8割以上の回答者がリスクファクターとして認識していたが、「非母乳哺育」に関しては6割程度とやや低く知識の偏りを認めた。また知識の獲得源としてはインターネットの存在が年々大きくなっている事が示唆された。傾向としてこれからもインターネット上で情報を得る機会が増加する事が推察される。しかし、厚生労働省のホームページにSIDSの記載がある事を知っている人は15%ほどと少数である事が判明した。正しい知識の普及・啓発には確かな情報源への接触が必要であると思われ、一般の人が厚生労働省のHPを閲覧する環境づくりが必要と思われる。

乳幼児蘇生法については平成26年度に行った実習と平成27年度に行った講義の比較を行ったが講義は実習に比して満足度、知識の獲得ともに低かった⁹⁾。実習は効果の点では有効なものの指導を行うスタッフの負担が大きい。また平成28年度に行った1回と2回の講義の効果比較では知識の定着に差はなく、講義を複数回施行する効果は低いと考えられた。平成26・27年度と28年度は質問が異なり一概に比較は出来ないが、知識の定着率を上げるには座学方式の講義のみでは複数回施行しても限界がある事が示唆された。啓発方法として双方向型の講習などを取り入れても良いのかもしれない。

E. 結論

SIDS、乳幼児蘇生法の講義の効果としては1回と2回では差を認めなかった。とくに蘇生方法の教育に関しては実習は効果的であったが指導者の負担多く普遍性に疑問が持たれた。指導者の負担が少なく効果が高い啓発方法を考える必要がある。SIDSについての知識獲得源としてインターネットが定着している事が

伺われたが厚生労働省のホームページは認知度が低く、今後の課題である。

参考文献

- 1) 境野 高資 BLS と PALS-新しい救急蘇生法ガイドライン- 小児科診療 2009.6 (19) p999-1008
- 2) Vinary.M et.al. First documented rhythm and clinical outcome from In-hospital cardiac arrest among children and adults. JAMA, 2006. 2;295 no.1:p50-57
- 3) Margrid B et.al. Outcome of out of hospital cardiac or respiratory arrest in children. The New England Journal of Medicine 1996;Vol. 335 no.20:p1473-1479
- 4) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修:救急蘇生法の指針 2010 (市民用・解説編)
- 5) American Heart Association:PALSプロバイダーマニュアル日本語版(AHAガイドライン 2010 準拠). シナジー, 2013
- 6) American Heart Association:BLSプロバイダー受講者マニュアル日本語版(AHAガイドライン 2010 準拠). シナジー, 2011
- 7) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児突然死症候群(SIDS)における科学的根拠に基づいた病態解明および臨床対応と予防法の開発に関する研究」 総括・分担報告書. 2008年3月
- 8) 平成26年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の病態解明等と死亡数減少のための研究」 総括・分担報告書. 2015年3月
- 9) 平成27年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児突然死症候群(SIDS)および

乳幼児突発性危急事態 (ALTE) の病態解明等と死亡数減少のための研究」 総括・分担報告書. 2016 年 3 月

F. 健康危険情報

特に認めない

G. 投稿、発表予定

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 喜多麻衣子, 岩間一浩, 釧持孝博, 岩崎志穂, 他. 当院で出産した母を対象とした SIDS および乳児蘇生法についての啓発活動に対するアンケート調査と今後の課題. 第 21 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会. 2015 年 3 月, 松本

2) 岩崎志穂, 脇田浩正, 林啓介, 花木麻衣, 他. 当院で出産した母親を対象とした乳幼児突然死症候群および乳児心肺蘇生の講義の満足度と効果. 第 22 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会. 2016 年 3 月, 横浜

3) 岩崎志穂, 脇田浩正, 林啓介, 花木麻衣, 他. 当院で出産した母親を対象とした乳幼児突然死症候群および乳児心肺蘇生法の複数回講義の満足度と効果. 第 23 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会. 2017 年 3 月, 津

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考資料 1:平成 26,27 年度に配布したアンケート

1.はじめに

- ①ハッピーバース(両親教室)に参加しましたか？ (はい・いいえ)
- ②ハッピーバースの話は SIDS の知識の獲得に役に立ったと思いますか？
(思う・少しそう思う・あまりそう思わない・思わない)
- ③産後新生児蘇生法の講義(実習)に参加しましたか？ (はい・いいえ)
- ④蘇生法の話(実習)は知識の獲得に役に立ったと思いますか？
(思う・少しそう思う・あまりそう思わない・思わない)

2. SIDS についてお聞きします

- ①SIDS について、聞いたことがありますか？ (はい・いいえ)
- ②①ではいと答えた方に質問です。その知識はどこから得ましたか？
(知人から・新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネット・マタニティークラス・その他)②SIDS の原因は？
(心臓の病気・脳の病気・気管、肺の病気・左記の全部・分かっていない)
- ③SIDS の予防には人工乳でどんどん大きくするとよい。 (はい・いいえ・分からない)
- ④仰向けで寝させることは SIDS の危険因子である。 (はい・いいえ・分からない)
- ⑤赤ちゃんが寒そうにしていたので、頭まで布団をかけた。 (良い・悪い・分からない)
- ⑥両親の喫煙は SIDS のリスク因子である。 (はい・いいえ・分からない)
- ⑦SIDS を予防するには、やわらかい寝具を用いるとよい。 (はい・いいえ・分からない)

3. 蘇生法についてご質問いたします。

- ①蘇生法の講習を、退院指導より以前に受けたことがありますか？ (はい・いいえ)
- ②お子様が反応がなく、適切な確認により呼吸をしていない場合に、一番に行うことは？
(救急車を呼ぶ・人工呼吸をする・逆さまにして叩く・胸骨圧迫をする・分からない)
- ③最初に行う人工呼吸の回数 (2回・5回・10回・分からない)
- ④小さなお子様の場合の胸骨圧迫と人工呼吸の回数は？(60対2、30対2、10対2、5対2、分からない)
- ⑤胸骨圧迫に大切なことは？(複数回答可)
(やさしく・強く・早く・ゆっくりと・絶え間なく・胸がしっかり戻るまで・分からない)

参考資料 2:平成 28 年度に配布したアンケート

1. ハッピーバースについて

①ハッピーバース(両親教室)に参加しましたか？ (はい・いいえ)

①で「はい」と答えられた方は以下の②③の質問にお答えいただいた後に 2.①の質問に進んで下さい。「いいえ」と答えられた方は以下の②③は飛ばし 2.①の質問に進んで頂いて結構です。

②ハッピーバースの話は SIDS の知識の獲得に役に立ったと思いますか？

(思う・少しそう思う・あまりそう思わない・思わない)

③ハッピーバースの話は新生児蘇生法の知識の獲得に役に立ったと思いますか？

(思う・少しそう思う・あまりそう思わない・思わない)

2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)についてお聞きます

①SIDS について、聞いたことがありますか？ (はい・いいえ)

①ではいと答えられた方に質問です。その知識はどこから得ましたか？

(テレビ・インターネット・マタニティークラス・厚生省のポスター・母子手帳・新聞・ラジオ・雑誌・知人から)

(上記の他:)

②SIDS の原因は？ (心臓の病気・脳の病気・気管、肺の病気・左記の全部・原因不明・分からない)

③SIDS の予防には人工乳でどんどん大きくするとよい。 (はい・いいえ・分からない)

④うつぶせで寝させることは SIDS の危険因子である。 (はい・いいえ・分からない)

⑤両親の喫煙は SIDS のリスク因子である。 (はい・いいえ・分からない)

⑥厚生労働省のホームページに「SIDS について」のページがある事をご存知ですか。(はい・いいえ)

3. 退院指導について

①蘇生法(胸骨圧迫、人工換気)の DVD をご覧になりましたか？ (はい・いいえ)

①で「はい」と答えられた方は以下の②の質問にお答えいただいた後に 4.①の質問に進んで下さい。「いいえ」と答えられた方は以下の②は飛ばし 4.①の質問に進んで頂いて結構です。

②退院指導の DVD は SIDS の知識の獲得に役に立ったと思いますか？

(思う・少しそう思う・あまりそう思わない・思わない)

4. 乳児の蘇生法についてご質問いたします。

①蘇生法の講習を、当院以外で以前に受けたことがありますか？ (はい・いいえ)

②お子様が反応がなく適切な確認により呼吸をしていない場合に、一番最初に行うことは？

(救急車を呼ぶ・逆さまにして叩く・胸骨圧迫と人工呼吸をする・分からない)

③1回に行う人工呼吸の回数 (2 回・5 回・10 回・分からない)

④人工呼吸の合間に行う胸骨圧迫の回数は？

(60 回、30 回、10 回、5 回、分からない)

⑤胸骨圧迫の正しい方法は？(複数回答可)

(2cm ほど沈むように・4cm ほど沈むように・1分間に 60 回以上・1分間に 100 回以上・胸壁が戻らなくても押す・胸壁が戻ってから押す・分からない)